

日本独自の経済生態系再構築に 寄与する新たな共助の形への考察

株式会社まちづくり松山 代表取締役社長
株式会社まちペイ 代表取締役社長

加戸 慎太郎



【プロフィール】

加戸 慎太郎(かど しんたろう) 42歳

株式会社まちづくり松山・株式会社まちペイ 代表取締役社長



<その他略歴、公職等>

1982年愛媛県松山市生まれ。

慶應義塾大学経済学部を卒業後、2005年よりゴールドマン・サックス入社。2009年、父の病気のため帰郷し、家業である株式会社とかげやの代表取締役社長に就任。2014年、株式会社まちづくり松山の社長に就任、「民主導の自立したまちづくり（おもいでづくり）」を推進。地域のプロデューサー、エリアマネジメント、インテグレーターとしての役割を果たしている。

- ・ 経済産業省／産業構造審議会委員 ・ 中小企業庁／中小企業政策審議会委員
- ・ 地方創生★アイデアコンテスト 全国審査会審査委員（官民連携の部）
- ・ 独立行政法人 中小企業基盤整備機構令和6年度地域活性化アドバイザー（中心市街地活性化）
その他 愛媛県商店街振興組合連合会理事長、松山市商店街連盟会長、一般社団法人お城下松山理事長等

株式会社まちペイ（社会の持続的発展のため）

法定通貨とは違う価値観（地域通貨、藩札）で動くものに共助のマーケティングを語らせて
部分最適と全体最適を適えるその地域独自の姿をデザイン

株式会社まちづくり松山（エリアのため）

当事者意識を持ち続けてリスクをとる事業を展開することで思い出づくりを推進し
松山の経済活性化と魅力発信に取り組む自立したまちづくり会社

株式会社とかげや（家業）

創業77年（3代目）

アパレル主体の業態から、飲食・宅配事業を立ち上げ地域密着型のビジネスへ展開

1: まちづくり松山

■ 「地域・都市開発」「商業振興」「観光産業」を通じた地域の持続的発展を目指して、自社の収益を原資とした新規事業の立ち上げや、事業を通じた人材育成、デジタルと地域の融合等に取り組む民間主導のまちづくり会社

- イノベーションネットアワード2021経済産業大臣賞受賞（地域デジタルマーケティングインフラ構築事業）
- 地域にかがやくわがまち商店街表彰2024受賞（松山市商店街連盟として）

プロデューサー

「民主導のまちづくりを具現化」

・行政が主導する施策に対して役割を担い、プロデューサーとして後押しに徹する

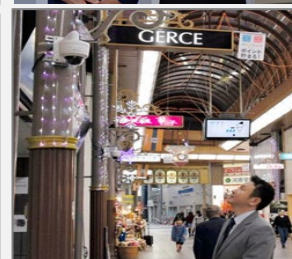
1. 当事者意識を持ち続ける組織
2. リスクをとって事業展開できる組織

エリアマネジメント

・旧来のガラケー開発型からスマートフォンの役割へ

インテグレーター

・地域の課題を解決するための様々な要素・手段を集約、提供する「インテグレーター」としての役割へ



MAP's + Oという持続可能な体制を構築し
地元運営のシステムを通じて生活データを集約することで「潜在需要」に応えるまちづくり

思い出から出発するまちづくり、まちづくりは思い出づくり

「まち」とは一人一人にとって大切な思い出がある場所
人口減少があってもみんながまちに思い出を持っていれば「まち」はなくなるはない

まちを経営するという視点、継続して効果を上げる

「流動性を向上させる ～人、カネ～」・外貨の獲得
・地域内循環の促進 ・省エネ、低コスト体制の確立

① 動力は「人」（人材の呼び起こし・育成）



「人材が集まってくる流れをつくる」
・人とお金の流れを育てる
・新しい人材を受け入れる



「みんなであつくり松山のまち」
・全員がプレイヤー
・自分事化、世代をつなぐ、円卓で

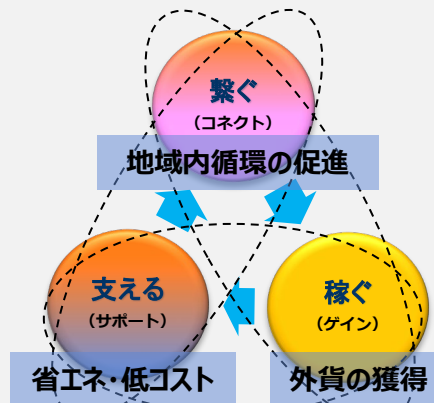
一人ひとりが主導する自立した持続可能なまちづくり

② まちのインフラ改革



「まちを動かす仕組みをガラケー型からスマートフォン型へ」
仕組みがぶら下がり型の縦関係に固定されており変化に柔軟に対応できない

ハード：時代の変化に応じてアップデート
ソフト：様々な課題に応じてアプリを使い分けるように、施策の準備ができています



2: まちペイ

地域の明日をより良くする

地域の自立を叶える武器になりたい

地域通貨という武器を持った地域が主体的に動くことが可能な経済生態系を理想と考える

- 地域を豊かにするための「藩札」であり、地銀的に地域を支援する役割
- 地域の共同資産を創出し、販促コストを共同化する
- キャッシュレス事業が目的ではないため、既存のペイメントサービスとは本質的に異なる
- 「まちペイ」は地域ごとの理念を実現するためのツール

machipay

決済データの提供・地域主体の運営
データ活用に基づく地域振興と自立的なまちづくり
を実現する重要な基盤となることが可能

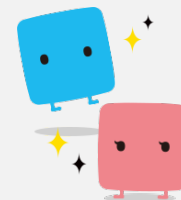
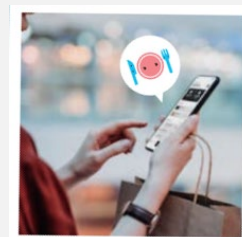
まちペイ

ダイバーシティ
サービス

オフライン

新たな価値・サービスを
生み出すインフラを提供
(地域のため)

地銀的



デジタル地域通貨
プラットフォーム



ストック型ビジネス
オンライン

既存機能のセールスが目的
(自社のため)

プラットフォーム

大手ペイメント

マスビジネス
オンライン

シェア獲得が目的
(自社のため)

都銀的



■まちペイはいよぎんキャピタルから1億円の出資を受入（2024年10月）、今後愛媛県内→全国への展開を目指す

【活用実績】

松山市：新型コロナウイルス対策支援事業(2020年～2022年)、プレミアム付商品券事業(2022年～2024年)、商店街等需要喚起補助事業、市民部での証明書発行代金支払いにまちペイ決済導入、道後温泉等の観光施設に導入、マイナンバーカード普及促進事業景品、健康マイレージ事業
愛媛県：愛媛県版マイナポイント事業 国：キャッシュレス・消費者還元事業、マイナポイント事業

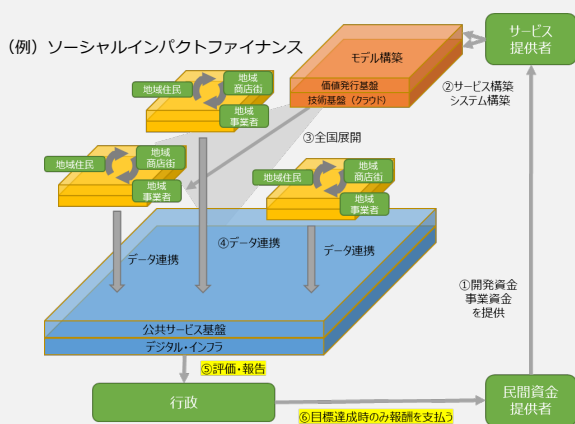
3：最近の活動

■ 日本経済の生態系…中小企業政策審議会での議論（抜粋）

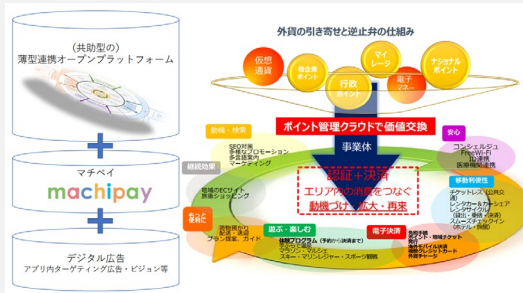
- **経営者が地域も含めてポテンシャルを発揮できる環境整備** 小回り効く経営で貢献してきた中小企業の良さを発揮できる環境
- **共助と公助を上手に組み合わせる** 中小企業が自立して地域における共助を発揮するためにトータルでサポートできる公助の仕組み

■ あらゆる省庁と横断して関わる地域の拠点…商店街等共助の仕組み

- **まちづくり会社等の持続可能な共助の仕組み** 地域課題解決に連携して取り組む企業や組織への支援、社会的意義の確立
- **商店街等の活性化・地域づくり** 個店支援から脱却、地域の個性と多様性の象徴・新たな豊かさを生み出す場としての商店街、組織力の向上



コミット構想：「みんなが関わる」を実現するための薄く、広い共助型のプログレスエンジン。サービスの立ち上げとマッチングを自由で手軽にすることで、需要と供給の地域内循環を促進、地域の向かう方向をシステム上で可視化。地域通貨をアレンジすることで頑張る地域やその支援者のメリットを最大化



ハイブリッド型地域自動吸引&域内循環システム



1人の人間にできることは限られている
投資が投資をよぶ、お金に働かせる金融世界から
想いが想いを増幅させる世界へ
⇒ **理念、コンテキストが社会を変容させていく**

■ **地方創生☆政策アイデアコンテスト全国審査員**（2020年から現在まで）



4：新たな共助の形（考察）

経済成長に寄与してきた日本独自の経済生態系（地方と都市部、藻場と資本市場）が崩れ新たな岐路に立っていると感じています

新たな生態系の確立もしくは理想のカタチを取り戻すには
旧来より育まれてきた共助のカタチが機能不全、もしくは失われていることも一因と考え
現状、自治体の行動原理（公助）だけでは叶い難く、地域のために地域の人々を動かす共助の仕組みを整えなおし
自助、共助、公助のリバランスを進めていくことが必要と考えます

現場に近い立場から模索し、実現に向けて取り組んでいます



地域通貨という武器を持ったプログレスエンジンが
地域にあるカタチ

■まちのOS、プログレスエンジンとは
公共、利用者、事業者、運営、4つの主体が
全体最適、部分最適のバランスをとりながら
マッチングとシェアリングを促進するしくみ